

三河 アララギ

2021年 令和3年6月 水無月

六 月 号

第 六 十 八 卷 第 六 号



ニューヨーク日記(176) <http://blueshoe.copetin.com/>

BlueCat, Shoe Lady

COOKING WITH A HIMALAYAN SALT BLOCK

Blue Shoe Diaries



ちょっと変わった焼き肉やってみました～ヒマラヤの塩の塊を熱して（ストーブやレンジで）その上で焼き肉！塩だから食材には塩分付けなくて焼きます。焼き上がりは鉄板と大して変わらないしちょうど良い感じに自然に塩付けが付いて美味しい！野菜も上に火が通るまで乗っけるだけで美味しく出来上がり！後は一緒にユニオンスクエアのファーマーズマーケットで見つけたマイクロ葉でシンプルなサラダを作って何だかバランスの良いディナーの出来上がり！

Cooking with a Himalayan salt block! It looks interesting, right? So you heat up the block on a stove top or slowly in an oven. Then you prepare what you want to cook. In this case, I sliced thinly a rib steak. The key is not to salt the meat because it will naturally absorb the salt from cooking it on top. You want a quick sear on the meat and it gets seasoned perfectly. If you cook it too slowly or let the block cool off too much (therefore prolonging the cooking time), your meat may get too salty. I also threw on some baby zucchinis and baby corn which turned out great! You can snack on the corn endlessly. For a little brightness, I added a micro leaf salad that I found at Union Sq Farmers Market and voila, a nice and healthy dinner!

目次

第六十八卷第六号(通卷八一〇号)

表紙・ユリノキ	今泉 由利(1)	水野 絹子(24)	木村 歩歩(34)
ニューヨーク日記(176)	Blue Shoe(2)	牧原 規恵(25)	植村 公女(34)
アカンサスの徑	御津 磯夫(4)	稲吉 友江(25)	矢崎 直人(34)
かぜくさ	大須賀寿恵(5)	鈴木美耶子(25)	今泉 如雲(35)
歌集「續々草々」	今泉 米子(6)	吉見 幸子(25)	今泉 由利(35)
かぜくさ	牧野 鍊子(7)	現代学生百人一首 東洋大学	かさね吟行会
宵待草	岡本八千代(8)	早川 将風(26)	『酔いの徒然』(110)
東海道松並木	弓谷 久子(10)	渡井 麻友(26)	楽しい時間(103)
光速	今泉 由利(12)	梶谷 栄太(26)	絹の話(127)
幼馴染み	安藤 和代(14)	黒木 礼乃(26)	本田カイロブクティック先生の春夏秋冬
夫と娘と吾と	清澤 範子(15)	関谷 咲(27)	『江上浩二の独り言』
先憂後楽	伊藤 忠男(16)	木村 美月(27)	漢詩研修(五十六)
空蟬橋	矢崎 直人(17)	木村日風子(27)	『正直覚悟矜持』
桜蕊	森岡 陽子(18)	田中 雄也(27)	梅天閑日
のんほいパーク	白井 信昭(19)	森岡 陽子(28)	大恩寺懷古
かれこれ百年	杉浦恵美子(20)	童謡『ナラシド どんどん音頭』	旅人芭蕉(2)
竹の子御飯	山口千恵子(21)	『俳句』	「水魚」のことから(245)
伊良湖岬へ	夏目 勝弘(22)	高橋 育郎(30)	編集室だより(二〇二二年四月)
『いとよせ』	いーはとぶ	山元 正規(32)	岡本八千代(57)
		田中 清秀(32)	夏目 勝弘(56)
		松本 周二(32)	今泉 由利(58)
		森岡 陽子(33)	野菜・果物・まんだら(40)
		浜田 紀政(33)	「三河アララギ」について
		重野 善恵(33)	(60)

アカンサスの徑

御 津 磯 夫

置き忘れしたるをいつか失へるものの如くにあきらめてゐき

いきほひのこもるみどりの端の珠解けつつこぞる草蘇鉄羊歯

仰向きに校正しをれば朱のペンのインクとぎれていくたびも振る

八重葎杉菜の青をしのぎ踏み足にかたきは小さき竹の子

竹の子を握る手力のなほありてわが生きてゐるけふのこの朝

世界一の味は味噌汁に白き飯パラグアイのお手伝いさんに言はじめし汝

スペイン語パラグアイ語また英語入り乱るる中を孫は歩まむ

アルゼンチンのセリーナさんの贈り物朱のあぢさゐ日本に來ぬ

うるはしき明日香女人を原色に刷りたる新聞を四五日捨てず

若葉森かがよふ堂にのぼりたりいのちながらへて來たりあひあふ

かぜくさ

大須賀寿恵

雫垂るる柳並木をくぐり抜け展けし道は海に続ける

背の骨のくされのまたも痛みつつ熟れそめし麦の芒の光りぬ

挿木せし枝垂柳のなびきつつ吾がある二階の窓撫づるなり

吾が事務室より私物かかへて出でてゆく君は明日より御津南部小学校長

吾が隣に飯食ふ兄の茶碗持つ左手の震へが伝はりて来る

あぢさゐをたわめつつ花のゆれてをり花より出づる小さき金へび

除虫菊の臭ひして来ぬわが降りる駅はこの次田原萱町

敷石の破れし隙より生ひ立ち一本のけし実を結びをり

頭痛腹痛に耳鳴りさへ伴ひぬ田蛙の声夜更けて止まず

人の云ふ言葉さまざま気にならずなり辞めむ日吾に近づく

歌集 「續々草々」

今 泉 米 子

輝ける月はあたかも十五夜にて今年の花のダチュラ開きぬ

幾度も違へつつ明細書の集計する窓の明るきは萩の黄葉

建て付けに隙間すきまのあるを戒いましめて幼きわれにきびしかりき

角の物は角に置きよが性となり我の一生ひとよの終らむとする

使ひたるものは必ず元に戻す錐一本も木鋏も移植鋤も

ポストへの朝の歩みより帰り来る翁は紅濃き薔薇をかざして

夕映に棟あふちの黄の實映ゆるかな掠鳥の群今年まだ来ず

白樫の梢を越えてわが庭の最上川胡桃の今日の黄葉

たまたまに奥の庭まで歩みたり耀ふは今年の櫻のもみぢ

あるがままを宜しとすれども忽ちに落ち来る梧桐の枯葉累々

かぜくさ

牧野 鍊子

あこがれし萩の城下に二人来て日の暮れ果てし萩橋渡る

崩れかかれし赤土塀のうへを越え枝たわみつつ夏みかん熟るる

白川の宿の朝餉に朴の香の味噌の香ただよう朴葉味噌料理

食膳の前に坐りて馨はしく朴葉味噌焼くる束の間を待つ

白馬山六月をまだ雪深く大白川ダム紫に暮るる

重文の遠山家にただに向かふ山には鉄線のいま花ざかり

朴の樹の白妙の花の咲く下にその稚木の芽生えて幾本

笑へば壁が落ちるよ奥山の古びし宿のこの朝あけに

古き家に新しきものと書きて売るコカコーラ呑む民芸の店

十年前ゆきし国道は水底に静かなるかな御母衣ロックフィルダム

宵待草

蒲郡 岡本八千代

岬の町西浦に生まれ育ちしわれたゝふりかえる事ばかりにて

今日もまた我思ふ故に我ありて朝餉^げ昼餉も共にしてをり

何事もわが運命を思ひつつ静けき更夜に床につくかな

玄関のガラス戸開けたればすぐ前に宵待草の黄^き淡^いき花

宵待草は朝にこそ咲きうれしかりその淡き黄色その花片^{びら}よ

さがしゐし竹久夢二の本みつかり今朝^{けさ}はまたもや嬉しきことばかり

見つかりし夢二の本のハガキ文夢二は幽冥路と書かれてゐたり

絵ハガキにも書かれゐし絵のみな楽しひとりの女が居ねむりしてゐる処

夢二絵ハガキの絵の楽し「恋愛の鼓論^{つづみ}」論の題名面白し

いつしかにダチュラも老いてぶらぶらとその老い姿がゆれてゐるかな

いつまでもダチュラの老い姿が庭にあり今年はそのままありのままかな

新型コロナウイルス除けむとて老ゆ人はますます外出禁止の日々

この夕べまた宵待草を見むとして玄関を開けて杖にもたれて

宵待草月見草ともいひてをり見てゐるだけのその楽しさよ

よぼよぼと杖つきてゐる己れをばありがたくも思ふ夕暮

東海道松並木

豊川 弓谷 久子

花見にと子に誘はるる風も止み晴れ渡りたり花見日和か

訪れし桜並木は御油の宿春爛漫の音羽川の堤

昔より馴染みの深き町なれど桜見物は今日が始めて

よろず屋と家号のありて代々の我が家の祖先の住みぬし町ぞ

東海道の景色を憶い松並木橋のたもとのお茶屋さん

人混みを避けし配慮が嬉しくてゆつくりのんびり花見上げをり

音羽川の流れの清し草むらにみさとがさがす四つ葉のクローバー

花の下にてマスクのままにて子と並ぶ今日の花見の記念の写真

マスク姿の花見の写真も何時の日か思い出話となる日もあらむ

杖つきて花見上げをり我の身にあと幾度の花ならむかと

心づくしの海鮮丼を我が家にて子等と楽しむ満ち足りし日よ

買物に便利と言はれ端布れにて今日も縫いをり小さき袋

手作りの小さき袋コンビニのレジ袋と呼びて今日も縫いをり

まつかなバラが一輪咲きをり剪定を惜しみて伸びし細き枝先

うづきよりさつきと変る春雨も五月雨となるコロナ禍の中

光速

東京 今泉 由利

ポルトガル路面電車の窓の辺の甦りくる今朝の目覚めに

しっかりと閉ざし籠るる部屋内に何の役にもたてざるままよ

ささやかにもう少しほど生きゆくを諦めないで邪魔せぬよふに

まんまるのピンクの月に向ひゆくひとつ便りをポストに運ぶ

月面より地球を覗きし人のありけネディ宇宙センターへ行きき

幸せに向かひ歩みゐるごとしおおきピンクの月のいでくる

今日の日の地球のまろみのうえに立ちスキップしたき心となりて

目を閉じて思い出しをり飛行機の窓にやさしき地球のまろみ

シアノバクテリアのおかげかと朝のきれいな空気のなかに

檜の木に檜の花咲くときにして団栗になる日を忍ぶ

光とはどの方向に進んでも速度の変化の無きままと日向ぼっこ

光には邪魔者は無し光速は一定であり日向ぼっこ

これほどの現実のあり宇宙なるはじまる前のことへの無知は

眠られぬ夜は映像のギアナ高地エンジェルフォールの霧と消えゆく

思ひ出は地果つところパタゴニア・パタゴン族の矢じり拾ひき

幼馴染み

豊川 安藤 和代

雨晴れて淡き芽吹きの中に指先程の梅の実光る

復興に何の援助も出来ねどもレジ横小箱にチャリンとおとす

休刊日むなしき朝よ伸び始めし百合の緑にことばかけいつ

白き鈴ならべし如き満天星のいたく可愛ゆし手にふれてみる

来るは嬉し帰るは寂し孫娘京の土産の八ッ橋を抱く

コロナゆえ春の祭りも静かなり少し細めにのり巻つくる

野を行けば雀のえんどう満開よ絵手紙にして友に送らん

電話では六十分も話したり幼馴染みは最高の友

髭はやしニッカーボッカーの青年が吾れに笑顔で道ゆずりゆく

親バカと言われてもよし栄進の子の載る紙面を何度も見入る

初蝶にや、冷めたいか今朝の風日射しよそそげやさしくつつめ

夫と娘と吾と

春日井 清澤 範子

前立腺癌大腸癌と九十の夫は三度目の集中治療室に居る

コロナ禍の中見舞うこともかなわずただ家にいて祈る祈るのみ

介護3の認定なり在宅介護にてウグイス鳴く日に三度目の入院

又娘と二人だけの朝食にウグイスきけば胸軽くなる

風強くシルバーカー引けず廊下の窓より庭木見るだけ

コロナ禍の内なり四階のナースステーションまで娘と吾と

大手術夫は決意す夫と娘と吾との暮し出来るため

三人の暮しをば又刺かれたり風の吹く日の夫の入院

三度目の入院S状結腸癌の手術がまた一つひとの山と医師は

先憂後樂

大阪 伊藤 忠 男

路地裏の名も無き花に目を留めて「君元氣か」と声かける朝
窓ガラス曇る春の日見えぬ風目覚めまぼろしまどろみの中
意気のみは天に昇るもこの身ではおぼつかなきか先見えぬまま
友からの「外に出られぬ君へ」との一筆添えて花の写真が
心から楽しみ得るはまず憂ひ絶ちて明日につなぐことから
久しぶりそよ風頬に触れる朝喜び帰り弾む足取り
道路脇いつもは気にも留めぬ花今は歩きを止めて手に取る
木々の葉も若変えりたり小川沿い淡い色目に甘さ漂う
平凡も非凡も見人見る心万物すべて活き活きとして
聞く耳を持つか持たぬか分かれ道名を成す人になるかならぬか
危機抜ける道を見つける叡知あり人を信じて今日も暮れるゆく

空蝉橋

東京 矢崎直人

府中駅春服並ぶバス停の美術館行き与謝蕪村展

母と子の入学式の帰り道まず思い出の一つ語らう

散歩道ハゴロモジャスミン包まれる甘くて強い花の匂いに

春夕焼坂駆け下りて駆け上がる北大塚の子らに抜かれて

雨の中スーパージェの割引にのせられ籠に次から次へ

山手線遅れて都電乗って知る東京の坂町の目線で

黒ぶちのポストの上に乗る眼鏡春の冷たき雨にうたれて

日の習い心に安堵もたらせり朝昼夕にお稲荷様に

短めの散歩を終えて帰る時さらさら春の雨降り始め

空蝉橋桜並木の二年目はゆくり眺める間もなく散りぬ

桜 蕊

東京 森岡陽子

春の泥ぬかるみ深くためらひし一步二歩目届かず

一瞬にほんの一瞬雲がわれ桜の間々に富士の姿

ひっそりと木香バラに囲まれし歯科医のドアに暫く休診

風に揺る川辺の葉桜しのぶ春賑やかし時は遙かに

多摩川の野焼きの土手に咲き初むは小さな小さな犬ふぐりの花

旧岸邸庭の真中の小川沿ひ松の緑の姿ゆったり

桜蕊降り行く先は茅葺きの秩父宮様御別邸跡

妃殿下の愛でし莖は光受けやさしくもろく薄く濃く咲く

のんほいパーク

豊川 白井信昭

朝夕のポストまでの行き来に確かむるツツジの今年の花芽を
ついてくる私の背よりも長い影友と思いつた方の道

豊橋の動植物公園いつよりか呼び名変わりてのんほいパーク
暖かい日差しうけつつ杖をつく妻を氣遣い歩み合はせて

朧ろ気な昔の記憶たどりつつようやくにして猿舎に來たり

道沿いの花壇の中に早も咲くヒラドツツジ白ピンク赤紫

ゴンドラのゆつくりと回る観覧車回り回れよ至福の一時

コロナ禍の感染拡大第四波わが三河路を聖火は走る

幾千万の花咲かしめてこのバラよ今日二十日母は百歳を迎う

二十四日三河アララギの故御津磯夫先生生誕百二十年

かれこれ百年

蒲郡 杉浦恵美子

春來たる不意に湧き出づ旅心我が母方の出自訪ねん

崖下の入江に面して縦長の家並びたる御崎は港町

此処かしらスマホが示す所番地一軒分のぼつんと空き地

我が祖父が妻子を連れて此処を出でかれこれ百年赤穂市御崎

先程来人っ子通はぬ狭き路地ゆつくり往復我が祖地此処か

曾祖母が暮しし家は跡形もなければ此処は慥かに我が祖地

市議選の選挙カー幾たび行き交へど猫のみ通る御崎の路地は

塩味饅頭ほのかな塩味が懐かしい祖母の手土産何時もこの品

鰯の稚魚入江の水面に群れ泳ぐ此処は瀬戸内今ひとつのふるさと

瀬戸内海我がルートなり今ぞ知る桜酣御崎の突端

ルート探し手がかりなくとも瀬戸内と三河湾とは海が繋がる

竹の子御飯

豊川 山口千恵子

はらはらと花びら散りぬ桜花残れる花を眺めて立てり
散り敷けるうす紅色の桜花夕べの雨に流れ片寄る

行き帰り眺めて通る満開の無住の寺の桜の花

道端に黄色鮮やかぼつぽと花茎短くたんぽぽの花

今年またいつものところならっぱ水仙寒の戻りの風に吹かるる

就職の決まりしと言ひ孫の来る窓辺の楓若葉の出づる

窓の辺に楓の若葉しげりつつ緑爽やか風の吹きすぐ

暖かき春の日差しをあびて伸ぶ休耕田の青き麦の穂

わが庭の牡丹も藤もはや萎れつかの間の命花の命は

茹で上げし竹の子白く柔らかし夕餉に炊かむ竹の子御飯

伊良湖岬へ(1)

豊川 夏目勝弘

高校に渥美線にて通ひしより六十数年の月日の数かず

田原まで電車にて行くは始めてなり伊良湖の五万図よみ返へしつつ

保美行きのバスに乗り居る学生ばかり終点にて降りしは一人のみにて

大海に今日は目に立つ波のなし無限と思へる広さがうれし

バス賃の千七十円を運賃箱に少しは遠くへ来しと思へり

街道に沿へる街並それて行く百メートル余にて農家の点点

昭和造りの広き農家に並び建つ平成造りのモダンな家も

保美の里に來たりてこの春のウグイスの声を始めて聞きしはうれし

電柱にここの海拔六・七メートル堀切の里はあと少しなり

津波よりの避難場所として小学校の跡地に台形の高き土盛

迷ひ迷ひようやく海の見ゆる道日陰少くなし松枯れ目立つ

日陰なく広き道のつづきをり菜花かきわけしばしを休む

波の音聞こゆる海に沿へる道港に向ふ漁舟の多し

昼近くなりてきにけり食堂の一つとて無き砂浜のつづく

目的地の恋路ヶ浜までまだ半ば残り少なきペットボトルの水

『いっしょに』

西浦公民館 いーはとぶ

朝刊の見開き写る震災都市ひとかげの無き定点映像

牧原 正枝

見開きに百人越えなる人の顔震災十年の夕刊はモノクロ

TVの「やまとの季節」の染む今宵いつ生まれてもときかさるこの夜 森 厚子

子らの父母は卒園式終へ病院へ吾らはひたすら生まるるを待つ

雨音はいよよはげしく啓蟄の夜はふけゆく春に近づく 山崎 俊子

夕暮れて手紙を出しに庭に立つ春の予感の草木はほの香

今年また小女子漁^{こおなご}は禁漁とかけふの海風の儚げにして 三田 美奈子

春先の試験曳^{こおなご}きには小女子の一匹も入らず禁漁は六年

小魚を咥^{くは}へしままにまな板の鰯^{はまち}は鰯^{ぶり}となる夢の中

水野 絹子

雨の中奮の日毎膨ませ我を待てるか木船の桜

加古川より一人旅にて孫来たる願ひ叶ひて共に嬉しく

牧原 規惠

友よりの夜中の電話驚きぬ愛犬の事故死その寂しさよ

スーパーの野菜売場に春は満ち緑の香りに包まれてゆく

稲吉 友江

若き頃聞き入れられず言の葉が今は身に染む父二十三回忌

震災より十年の過ぎわれらかの日吟行会の路帰り来しに

鈴木美耶子

父母の墓の水仙と菜の花よ弟の庭の花ならむきつと

池坊の百周年花展祝ひたり整然としてコロナ禍の中

吉見 幸子

亡き父母の命日は如月過ぎにけり代も替りて親替りしつつ

現代学生百人一首

東洋大学

母の背が大人になると語ってるごめんよ僕はもう子供じゃない

品川区立大崎中学校三年（東京都）

早川将風
はやかわ まさかぜ

スカートの折り目のしわを手でのばす六年間の青春の跡

白百合学園高等学校三年（東京都）

渡井麻友
わた い ま ゆ

中三でやっと手にしたスマートフォン友と語らい汗ばむ画面

成城中学校三年（東京都）

梶谷栄太
かじ たに えい た

電車内スマホの群れに紛れ込むおじいちゃんの古本の香り

星美学園学校三年（東京都）

黒木礼乃
くろき れい の

「おつ」「おけ」「り」スマホの会話単語だけそんなにみんな忙しいのか

台東区浅草中学校二年（東京都）

関谷 咲

騎馬の上体温伝わる足裏に友を信じて心は一つ

中央大学高等学校二年（東京都）

木村 美月

友達の父の悪口聞いた日も私は父とタピ活をする

中央大学高等学校三年（東京都）

木村 日凧子

ラインの輪話のスピードリニアなみ乗り遅れたら過去の人なり

東京学芸大学附属高等学校一年

田中 雄也

贈呈誌

森岡陽子

秋楡 第111号

○さくら見の約束のこし友は逝き春の苛酷をおもう七度

三原香代

○眼閉じ四季を旅する歌聴けり心の隙間へ染み込むように
まなこ

不破明子

○ひと日ずつ過ぎて九十二歳なり物忘れなど自認の日日よ

市川壬子

○みどり濃き数寄屋椿の葉の細く淡き花卉の殊に気高し

坪根恭子

冬雷 2021年 5月号

○羽虫とび小鳥しき鳴く頃となり小川の水はほがらに流る

天野克彦

○取り立てて想ふ事なくシューズ履き鴉に教はる燃えるゴミの日

嶋田正之

○桑畑つづく近道抜けてなほ荷馬車行く道歩み歩みき

櫻井一江

○さはさはと風吹き渡る茶畠のやはき刈り込み立ち止まり見る

増澤幸子

○ひと群れの白鳥別れを告げると吾ら目指して岸に寄り来る

飯嶋久子

○つくば嶺の山肌うつすら白くなり輪郭ぼんやり満開の梅

吉田佐好子

○轟音をひびき渡らせ三機飛ぶ山峡の空割れんばかりに

松中賀代

○暗き道に夫のコートのポケットに共に手を入れ歩きし事あり

稲津孝子

○まんまるの赤き太陽沈みゆきほどなく望の月のぼりたり

内垣米子

○うづたかく重ね置きたる床の本地震の揺れに敢へ無く崩る

中村哲也

○だんだんに農地が減って都会化の波に飲み込まれ狭山茶遠のく

横田晴美

「ナラシド♪」どんだん音頭

高橋育郎 作詞

一、ハアー バラが咲いたよ 「ナラシド♪」どん

水鳥飛んでる 「ナラシド♪」どん どん

習志野生まれの アイドルだ（ソレ）

みんなで踊ろう 輪になって

空は青いよ 風さやか みどり豊かな ふるさとの街

「ナラシド♪」どん ハイよろしくね

二、ハアー シンボルマークは 音符だね

頭にアンテナ かわいいな

この街きょうも 奏てる（ソレ）

あしたもみんなで 歌おうよ

音楽の街だよ 胸が鳴る 文化のかおり 明るい笑顔

「ナラシド♪」どん ハイしあわせに

三、 ハアー 翼パタパタ 大きな目

元気がいいね 頼もしい

みんなが大好き 「ナラシド♪」どん（ソレ）

拍手と歓声 湧きあがる

スポーツさかんだ 光る汗 輝く健康 未来を拓こう

「ナラシド♪」どん ハイどこまでも

『俳句』

また一つ物片付づけて春惜しむ

山 元 正 規

対岸の夜空明るき春祭

子燕の口へ顔まで親燕

遊覧船分けゆく先の花筏

田 中 清 秀

一品のつまみで手酌春惜しむ

竹の秋岩屋の奥の五輪塔

泉州が匂ふや茄子を手で割けば

松 本 周 二

つぎつぎに白波消ゆる余寒かな

竹秋に馴染みの土蔵こはれおり

校庭に置かれしベース黄砂降る

森岡陽子

茅葺きに桜葉降る富士とほく

寺はしの比翼塚添ふ落椿

鞆や夕暮れどきの影ふたつ

浜田紀政

うららかや木漏れ日浴びる登山道

トロ箱の野菜芽を出す風光る

憂きことの一つや二つ朧月

重野善恵

花屑に風の悪戯渦模様

葉桜となりて根方の花壇

足冷えに嵐の予感菜種雨

木村歩歩

散る花も窓に磔刑嵐かな

春夕焼母子ふたりの鬼ごっこ

バス停にうす紅の笠花水木

消しゴムの角丸くして新入生

植村公女

妹の先に逝きけり春疾風

大ぶりのコーヒークップ山笑う

二月の松ノ木遺跡風の中

矢崎直人

花冷えや人っ子おらず月曜日

春の雲つかずはなれず旅に出る

龍天に湯屋に高安のよな背も

今泉如雲

小さき雪解川あつめて岩木川

まだ白き鳥海山や春霞

常磐木の松の緑に花吹雪

今泉由利

石段や初夏はつなつの空へ登りゆく

散り頻る染井吉野の桜ん坊

雛ひな毬げし栗の小さき小さき坊主立ち

かさね吟行会

「二子玉川土手付近」 3月

田中 清秀

二子玉川駅の周辺は、昭和四十四年（一九六九年）に玉川高島屋が日本初の郊外型ショッピングセンターを開業して以来、市街地として発展して来ている。世田谷区の南西に位置し、北は緩やかな丘陵、南は多摩川が流れる比較的緑が多いなだらかな地形である。また、「二子玉川」という名前は川崎市側の二子村と世田谷区の玉川村に由来すると言われている。

令和三年四月十六日、かさね吟行会は多摩川沿いを散策した。幸いに風もなく穏やかな日中に恵まれ晩春の長閑な吟行会となった。

名も知らぬ土手の野草に春惜しむ

素山

多摩川の空軽やかな蝶の昼

陽子

多摩川の流れも風も光りけり

京子

世田谷区は東京二十三区内で人口が九十四万人余り

と最も多い、面積も大田区に次いで二番目に広く全体の九割が住宅地である。歴史を振り返ると、江戸時代には大山街道の宿場であり、二子の渡しふりの船着き場付近は沢山の茶屋で繁盛していたと言う。明治に入ると、茶屋は料亭に変わり東京からの行楽客などが訪れておおいに賑わっていたようだ。戦後になると、交通インフラの整備に伴い世田谷区の広域生活拠点と変わり、多くの高層マンションが建設され、商業施設や広場などが造られた。ただ、駅前の繁華街を抜けて多摩川の堤に出と、そこには自然環境が今でも残されている。多くの野草が土手に生え、蝶が舞い小鳥の声が聞こえるのんびりとした風景が広がっている。遠方の鉄橋からは電車の音が聞こえ、元の野焼きの後の原っぱにはスミレやタンポポが咲き、また、レンギョウなど多くの黄花も見られた。

日差しみな己に溜めて濃山吹

正規

酸模ハコや古里に似る川の土手

善恵

川沿いを下ると、余り知られていないが平成二十五年に完成した「二子玉川公園」がある。本格的な回遊式日本庭園で、名前は「帰真園」といい、世田谷本来の自然

に回帰するという意味が含まれていると言う。誰もが楽しめる綺麗な庭園である。その中に旧清水家住宅の書院が移築されている。明治期の近代和風建築で、世田谷区の有形文化財に登録されている。池の水に写る高層ビルと日本建築との調和は時代を超えた優雅な景色を演出している。また、この池には準絶滅危惧種の貴重な「あずまひき蛙」が生息している、その可愛いオタマジャクシは子供達の楽しい理科の教材ともなっている。さらに園路沿ってのんびり散歩を続ける、植えられた梅や松の樹、ツツジや藤の花などをゆっくりと眺めながら、石灯籠や石船など少しずつ変わる景観を満喫する。

庭園に響く水音鳥曇る

ゆるゆると下る石段藤の花

紫の風なびかせて諸葛菜

紀政

清秀

さち子

「この庭園は、日本古来の優れた空間文化を人々に伝えていくことを主題に作成され、広さは約五八〇〇平方メートル、多摩川の源流から本流まで、国分寺崖線のみどり豊かな丘陵や武蔵野の風景を表現した空間（縮景）となっています。庭園内は誰もが快適に散策を楽しめる

よう、ユニバーサルデザインを基調とした施設づくりを随所に行っています。散策の途中にしばし佇みながら、四季や時間により変化する風景を、視点を変えながら楽しむことができます。（一部編集）」と、備え付けの案内板にあった。思いの外、立派で美しい日本庭園である。

春の自然豊かな景色と日本庭園の散策を終え、句会は、タクシーに乗って上野毛まで行き、和風のレストランの一室を借りて食事をしながら行った。いつものように囁目三句出し四句選で行い、行く春を惜しみながら無事にお開きとなった。

『酔いの徒然』（一一〇） 丸山 酔宵子

『痛まない死に方』

本稿を書いているのは第3弾非常事態宣言前日の4月24日未明。日本の感染対策は、只管、日本人の持っている知性と節度と潔癖さにすべて依存しているだけであつて、偉そうに振舞っている菅首相、小池都知事等々、国家地方政府の無能、無策には本当に腹が立ってならない。そんな厳しい条件下でも、それなりに節度とルールに則って、日比谷、有楽町、銀座界隈のロードショー館に出没し、三密を避けて今年も既に33本見ている。

未曾有な超高齢化社会と突然出現した新型コロナ禍の中で、ひっそり上映中である衝撃的タイトルの「痛まない死に方」を恐る恐る見たのである。

在宅医療のスペシャリスト長尾和宏のベストセラー「痛くない死に方」「痛い在宅医」をベースに、「禅ZEN」「赤い玉」の高橋伴明が脚本・監督した話題作。

在宅医療に従事する河田仁（柄本佑）は、疑問を抱えながら日々医療現場に邁進していたある時、末期肺がん患者の大貫敏夫（下元史朗）を担当することになる。娘の智美（坂井真紀）の意向で、入院ではなく在宅医療を選んだが、敏夫は苦しみ続けて死んでしまう。智美は父の為に「痛くない在宅医」を選んだはずなのに、病院から自宅に連れ戻した自分が殺したことになるのかと河田に迫り、河田には突き刺さる言葉だった。

そんな時、河田は在宅医の先輩である長野浩平（奥田瑛二）に相談するが、河田は悔恨の念に苛まれ、長野の元で在宅医としてあるべき姿を模索する。役柄とは言え奥田瑛二という役者はいつもまい、役に只管没入し、本当にいい味を出している。

二年後、同じく末期肺がん患者の本多彰（宇崎竜童）を担当する。若い頃はゲバ学生で暴れて就職できず、大工になり現在は棟梁。江戸っ子の潔さで末期がんを受け入れ、愛妻本田しぐれ（大谷直子）の介護で、河田とともに痛くない死に方を進めて行く。

粋な棟梁役の宇崎竜童の自然で、すっきりした演技が

素晴らしい。白髪のスケベイ悪爺姿がチャームिंगで、不自由な身を自虐的且つユーモア溢れる川柳を作って楽しんでる。

延命の最後は誰も管だらけ
自尊心紙のおむつが踏み潰す

ある夏の夜、定期検診で伺った夜、夏空に花火が打ち上げられ、庭を前に縁側で本田夫婦、河田が花火を眺めていた。

「先生、一杯クイーツといいですか・・・」
「・・・それはいいですね」
愛妻しぐれはとっておきの純米吟醸を氷桶に入れ縁側に運んでくる。ドーンと花火が上がると、
「先生、一服いいですか・・・」
と言うと、しぐれがこっそり隠した煙草を持つてくる。往年の大谷直子も年を重ね、まだ衰えぬ年季の入った妖艶さを見せてくれる。

宇崎竜童はある新聞紙上のインタビューで、人生百年時代、「これから毎日一曲作りたい」と言っていた。本作品、高橋伴明監督はよくぞこのテーマで作った、宇崎

竜童はよく出演してくれたと絶賛のエールを送りたい。因みに宇崎竜童は高橋伴明の出世作『TATTOO（刺青）あり』主演以来の盟友で、高橋伴明の奥さん関根（高橋）恵子は宇崎が紹介したそうだ。日本映画も捨てたもんじゃない。

冷え冷えの吟醸光る江戸切子

酔宵子

楽しい時間 103

山本紀久雄

2021年4月30日

九代目市川團十郎・・・其の九

「勝罪子事件」について、京都のからくり人形専門の興行師小林新助が『江戸公事日記』として書きのこしている。その内容の続きである。

前号で、千葉県・館山の「さなぐら村」で、人形浄瑠璃芝居興業を行ったが、エタ頭・弾左衛門手代の治兵衛から「櫓錢」の支払いがなかったと抗議を受けたことまで述べた。

この抗議に構わず小林新助は『房州丸之内薄谷村と申処』へ移つて興行を続け、宝永5年（1708）3月9日の初日は無事に終えたが、翌10日に安房・上総・下総のエタ300人ばかりが小屋を襲った。芝居はぶち壊されたのである。

江戸にもどつた小林新助は3月21日に町奉行に訴えたが、判決は丹波遠江守が思案ののち次の理由で「却下」された。

1 旅芝居は、江戸二カ所（木挽町グループと葦屋・堺町グループ）とは、扱いがちがう。

2 旅芝居は、弾左衛門支配下の「乞胸」と同じ扱いになる。3 べつに弾左衛門を呼び出して裁評するまでもなからう。

丹波遠江守は『旅芝居の儀は弾左衛門下タ乞胸同然』と、幕府が成立して約百年、公認の江戸四座以外は弾左衛門の管轄下に置かれているという慣習を述べたわけである。

これは大変だと、ここで小林新助が登場し名乗りを上げた。『京都四条河原操師名代御赦免被下候小林新助』と、自分

は公認された操り師だということを強調し、『此度弾左衛門下に罷成り候ては、京都御堂上様方より被召候節、上り申事如何と奉存候』このたび、弾左衛門下（した）にまかり成り候ては、京都の公家から召されたとき、参上することが、いかがなものかと述べたのである。

小林新助は敢えて「京都」と「堂上」を強調し、京都の公家の前で興行できなくなるといふ。できない理由は「ケガレ」を受けるからである。弾左衛門の下に置かれることは、私がケガレを受けることになって、そのケガレが公家に伝播するというのである。

そして、口上の最後に、奉行所に質問した。「旅芝居がなぜ弾左衛門の下に置かれるのか。その理由をお聞かせください。役者という者は、旅芝居に出て芸をみがき、そのうえで、江戸、京都、大坂の芝居に出ることができるようになるのです」

この質問は、なぜか功を奏した。

奉行はうなずいて、「申すところ、一理がある。裁判はつづけるとする。弾左衛門を呼んで、旅芝居がその下になぜ置かれるようになったのか、その理由を聞きただしてみよう」と述べ、次の裁判は4日後の3月25日と決まったが、その後何回か裁判を続けたが結論は下せなかった。

ここで弾左衛門の屋敷がどこにあったのか地図（『復元江戸情報地図』朝日新聞社）で確認しておきたい。弾左衛門屋敷は山谷堀の今戸橋と新島越橋の間に位置し、現在の東京都立浅草高等学校の運動場あたり（東京都台東区今戸1-8-13）である。屋敷帯は、浅草新町（地図の㊦）とも、弾左衛門囲内とも呼ばれた広い区画であったが、周囲を寺社や堀で囲われ内部が見通せない構造になっていた。この事件当時の宝永5年時、弾左衛門は四代目に当たる。

裁判は6回目の呼び出しとなった。奉行が小林新助にいった。「なんなりと役者がエタの支配を受けないという証拠があれば申してみよ」そこで、小林新助が言上した。「そもそも歌舞伎芝居ですが、はじまつてからようよう80年ばかりです。その間、今日までエタの下というものの、なんの証拠もありません」

「芝居の80年間の歴史を見ていただくと、そのようなことがないとおわかりいただけるものと思います。黒川道祐^{くろがわみちすけ}の書いた山城国の記録『雍州府史』の四条河原町始まりのところに、次のように書いてあります」「歌舞伎は、名護屋三左衛門とその妻のお国が、出雲の神楽の真似をして始めたのです。それをいま歌舞伎と申しておるものでございませう」

これは効き目があった。奉行の丹波遠江守が「それでは調べてみる」と応じたからである。『雍州府史』を読んでみようと考えたのである。いよいよ最後の判決の日になった。

『雍州府史』を調べてみたところ小林新助のいった通りであった。歌舞伎が始まつて以来80年というのは間違いない。その上、



これを始めたものは素人だ。出雲の巫女を真似てスタイルを創出し、その後、徐々にセリフやドラマの要素を付け加えていったことがわかった」「このような者を、おのれの支配下だという弾左衛門は不屈き千万。弾左衛門の差し出した『頼朝御証文』は四、五百年のまえのこと。歌舞伎はまだ百年に及ばないのに、どうして四、五百年昔の証文に載っているのか。そんなことはあるまい」

「どつに不届きなので、町奉行よりきつく申し付けるがよい」老中の意見を取り入れて、丹波遠江守が言い渡した。

「このたび、安房でエタが集団を組んで暴れたのは、道にはずれた悪いことだ。そのうえ、遠国からはるばる来てくれた者に苦労をかけたのは失礼なことだ。よって、次の者は入牢申しつける。穢多、弾左衛門手代治兵衛、同、房州正木村庄兵衛と善兵衛」弾左衛門は始末書提出となった。

小林新助は以上の経緯を『江戸公事日記』としてまとめた。記したのは京都に戻ってからである。その後の『江戸公事日記』顛末は、多分、写しが小林新助から江戸の芝居関係者に送られ、それが二代目市川團十郎にわたった。二代目はこれを写して巻物にして『勝馬子』と表題をつけ、後々まで市川家の宝物として、現代にまで遺った。

安永2年（1773）の春、四代目市川團十郎が舞台で、芝居創設150周年のよろこび口上を述べ、市川家に代々伝わる品々を披露し、次のように述べた。

「わたしたち役者は、これらの品をくだされた高貴な人たちに召され、じきじきにあいさつができる者です。おのおのさまたた、河原者とか七乞食などと、お心ちがいがいよう、お願いいたします」と、歌舞伎役者を、河原者の同類だと思わないでいただきたい、と強調したのである。次号以下でも続ける。

絹の話 (127)

「アトリエテレビ」 今泉雅勝

真綿の今昔

真綿の思い出

真綿といえ、幼少の頃（昭和20年代）、打ち直した木綿の布団綿の表面にB5程の大きさの真綿を力を入れて何枚も広く伸ばして覆い被せる祖母の手伝いをした事を思い出します。

「真綿の両端をしつかり掴んで決して離さないで！」という祖母の掛け声と共に真綿のクツクツという低い音震が指の先から脳に響き、アツという間に空の雲が吹き飛ばされるように布団大に広がり、或る所は厚くこちらが薄く魔法使いか手品の様でした。

それは手伝いというより、とても気持ちの休まる様な時間で浸った。その気持ちは美味しいものを食べた時ともぬるま湯に浸かった時とも違う、親に頭を撫ぜられた時と似た様な気分でした。

この時代、この様な事は全国何処でも行われていた様で、各地のデパートなどの私共の作品展の時、繭の展示を見た年配のお客様が同じ様な体験談を懐かしそうに話してくれまう。真綿は庶民の生活必需品で、田舎の小さな駄菓子屋さんにも置いてありました。

真綿の効用

布団用に使う木綿の綿は普通インド綿などの繊維長が大きくて短いもの（現在世界で最も多量に使われているアメリカ綿は3〜3.5cm、超長と言われる綿海島綿は5〜6cm）を使いますので、長い間に綿が切れたりしないように布団綿の表面に繊維が10000m〜15000mも縦横に絡んだんだ真綿を引き延ばして綿切れ防ぎに使われました。

同じようにどてらやちゃんちゃんこなどの綿入物にも広く使われました。その効用は真綿を厚く使うか薄くするかで感触に差は出ますが、真綿は綿切れを防ぎ保温に役立つばかりでなく、布団の表面の雑菌の繁殖を防ぎ体臭などの匂いの発生を抑制吸収し、綿が汗を吸い込んだ水分の気化を促進させ、余剰になった活性酸素を中和し、幸せホルモン（オキシトシン）の分泌を促して、血行促進に繋がっているのです。さらに絹鳴りの音震（皮膚で聴く音）が癒しを誘ってくれます。

このように万能とも思われる優しい真綿が化学繊維の発達と普及によって殆ど市場から姿を消してしまいました。同時に皮膚疾患者の増加ばかりか、精神不安定者が増えて化学綿は自然環境にも弊害をもたらす様になりました。

真綿の興り

真綿はいつの時代に今日のような真綿が作られる様になったか定かではありません。繭から生糸を揚げる事を発見する以前に既に作られ、広範囲に使われていたと推測されます。生糸に関する古い記述は多々ありますが、真綿は庶民の間から発展したもので、庶民のものは記述

に残されにくい事から、中国では明時代、日本では江戸時代後期（養蚕秘録、1803年）になって初めて作り方が記述されています。しかし6世紀中期の欽明天皇の時代に使用されていたようで、その後遣唐使の船員の2年分の給料の一部が真綿1kgという記載があります。

世界的には中国の杭州の真綿が良質と言われています。その付近は1万年以前、現在のタイ北部などに住むミャオ族の定住地で、クワコ（現在の家畜化された蚕の元）の繭の中の蛹を食べる昆虫食から、蛹の汁を吸い終わって口に残った繊維を口から引き出し、絹を発見し、その繭糸束から紐が作られ、網などを作る事に発展し、やがて繭をほぐし真綿を作り、撚りのかからない太い細糸（今日の結城紬にその原型を見る）を骨針で織る粗い織物が作られ始めました。

これは絹綿作りが中国大陸の北に住む漢族伝播して、同じ様に繭を煮て真綿を作る過程で、湯気と一緒に上がった糸口から生糸を揚げる事が発明される5千年位前の事になります。杭州の真綿が良質なのはこの様な伝統的な技術が今日まで受け継がれて来ているのでしょう。

真綿の作り方

蚕を飼うと色々な繭が出来ます。蚕は1頭（匹と言はない）で狭いところで楕円形の繭を作りますが、時として2頭一緒に繭を作ることもあります。これは玉繭と言って、やや大きくて丸い繭になります。この繭は糸が絡んで生糸を揚げると節ができて良い糸は採れません。しかし真綿づくりには最も適した繭として取り扱われます。その次には穴明き繭、出殻繭で、病気繭などは低

品質というように使われる繭によつて真綿の良し悪しが決まりますが、作る人の技術が大きく左右します。

先ず、繭を灰汁や重曹で煮て、途中で菜種油などを入れ、再度煮ます。繭が熱いうちに採まらずに静かに水洗いをし、指を入れて繭を力強く引き延ばし、これを袋状に広げて、より大きな竹等の丸い籠に4枚以上かぶせて乾燥させて作ります。熟練を要する仕事で、慣れるまでに1年ほどかかると言われています。今日でも日本では福島県が真綿の産地で、品が良いのですぐに入金された事から「入金真綿」と呼ばれるようになりました。

真綿の利用

従来から真綿の多くは結城や小千谷、米沢、大島等の伝統高級紬の原料として使われ、寝具、洋装品にも使われて来ました。何と言つても50年前頃までは全国津々浦々の家庭で多用されて来ました。昨今ではゴルフやハイキングウエア等にも活用されています。

今後の真綿の活用

絹は繭が綿から糸になった時から権力者の支配下に置かれ、庶民の利用を制限してきました、その為、今日でも「絹」と言うだけで高級、高価という素材のブランドになってしまいました。絹は糸以前の綿の段階では特別な機能的な物ではありません。絹の計り知れない多くの有効な機能性を利用した安価で心身保全の日常生活用品（枕やクッション等々）を作り多くの人に自然と共生の新たな道を開いて行つて頂きたい思います。

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田 勇氣

2021年4月30日

6月病に向けて

昨日と打って変わって良い天気ですね

透き通るくらいに感じる綺麗な青空がみれて感謝です

最近朝起きた時に むくみ を感じませんか？

特に顔や目のむくみが感じやすいかもしれません

これは寒暖差や疲労などからくる 腎臓 の問題だったりします

腎臓の問題は

腰はもちろん心臓などの循環器系などにも影響が出たりします

腎臓は大事な臓器なので2個あるんです

では腎臓を守るためにどうすれば良いのか？

それは冷やさない事 水分補給をする事

疲れすぎない事などが大切です

冷やさない事とは

冷たい物 氷などの摂取を控える

身体が寒いと感じさせない事

などが必要です

水分補給は

1日8回小便が出る量をゆっくり少しずつ摂取する事

疲れすぎない事とは

同じ姿勢を30分以上しない

23時までに就寝してしっかり身体を休ませる事

などです

普段から言っている 3S です

6月病に向けて身体を大切にしましょう

今日も笑いながら行きましょう

2021年4月19日

朝方目が覚めてしまう睡眠

本田カイロにいらつしやる患者さんから

「アプローチの植木鉢に植えてある あの花は人参です
よね。」

という質問を多々受けました

そうなんです 人参なんです

スツと高く伸びた茎 幾何学模様のよつな葉が綺麗な
んですよね

ここ最近睡眠の相談が増えています

その中でも朝方起床時間より前に目が覚めてしまう

というものがあります

目が昇るのが早くなり陽射しが差し込む様になると

身体は反応して目が覚めてしまう

というのは健康な証です

就寝時間が23時前であれば大丈夫です

「あつゝ起きてしまった」ではなく

「まだ起きるまで時間がある ゆつゝりできる」

という様に幸運と思つた方が良いでしょう

この時期は

どうしても自律神経の問題から

マイナスの方へ考えがちです

その時は悪く落ち込んで

長い目で見た時に結局それが良い方になります

ヤケや短気を起こさず

後悔しないように

なるべくならポジティブな方へ考える事が出来ると良い

ですよ

今日も笑いながら行きましょう

「江上浩二の独り言」 42

江 上 浩 二

二十年前のノート

四月一日、年度末の仕事や確定申告も済んだので、書類をまとめ書棚のだいたい決めた場所に差し込んでいたら、上から四段目の一番右端で普段は物陰になって何が差し込んであるのか分からないところにあつたノートを取り出すと、二十年前の2001年が書き初めて、サラリーマンを早期退職する2004年の年末の直前までに、私が仕事上や普段の事で、気になった事や将来に向けた少し科学的な構想を書きでメモした汚い自分のペン字が見えた。

恐らく、皆さんと同じく初めの一頁目は綺麗な字で書き始めて、そのうち、自分で書いた字を判読するのに難儀するようなページが続いた。おかしいもので、書いたページが時系列になっておらず、長い空白のページが途中に居座っている所などあり、今日の令和三年四月一日エイプリルフールの日にこのノートを見つけたと差し込みたい位である。

書き方は、日付とメモのタイトルで、幾つか気になったものを列挙する形式で、箇条書きや少しまとまった文

章で書いたものが混在しており、その時々の中の思考形態を反映していたかもしれない。次に全部ではないが、それらを示す。

- 大学時代、研究室で指導を受けた助手の方（年代的には既に某国立大の教授）の科学的自論
- 法隆寺の五重塔の心柱と各層の組み合わせの耐震構造（壊れない程度にずれる歪む）と自分のコメント
- 消費・インフラ分析と各利用製品の耐用年数
- 学会で講演会を聴講したまとめたメモ（業務上であり詳細は省く）
- J Rの列車乗車中にメモしたと注意書きのある、図解の古代、百済、新羅、高句麗出自の日本列島への移民となぜ、東国からわざわざ遠路西国の警備に防人があてられたのか
- サラリーマン時代にコンサル講座を受けた関連の講演会メモやコンサル研修仲間との談話
- 自分で考えた将来へ向けた安定健全な投資行動について（低金利時代に入るので高配当株がいいとか）
- セラミックスの破壊モデルに基づく地震予知（破壊初期時にピエゾ電気効果と超音波が発生する）
- 2001年に書き留めたこれからのIT時代に向かう姿勢（トラフィックが一万倍になる年数とか）
- 当時の仕事に関係した通信ネットワークや光海底ケー

ブルについて

- 自分のブログのネタ記事（複数ある）
- 今後の労働環境と日本の強み向上（人材育成が重要）
- 地元東京北区瀧野川地域、主に神社仏閣を探索した際のメモ（当時まだデジカメの性能が低かった）

それらの中で、2003年に東北大で開催された情報通信関係の学会の個別専門分野の学会講演発表の詳しいメモに交じって、当時普通の学部卒で若くして前年2002年のノーベル化学賞を受賞された民間企業の田中耕一氏（会場の東北大学工学部ご出身）の特別講演（三月十三日）のメモ書やもkey wordsと付記され、赤字で綺麗に残っていた。以下、具体的に私がメモったものをそのまま紹介する。

☆細かな技術論は別にして
新鮮さの維持が大切

- 時にはテーマ・仕事を変えよう
- ・ 門外漢の新鮮さ
- ・ 過去に取らわれない、既成事実にくくばくされない

0を1にする発明、努力
1を100、1000に改良、改善する努力

定かでないのだが、これら赤字のメモは田中さんが話された言葉そのものだったのか、仰った内容を私が咀嚼したものだったのか？やはりノーベル賞研究者の苦しみに分かるのは、何と言っても0を1にする発明発見であろう。1を100にする努力と比べてもその比は無限に大なるものである。（注：当時外資系企業勤務で英語ばかりで日本語力が落ち、下線を付したように誤字や平仮名のままの部分があった）

私は日記を書かないが頭の片隅には覚えておく癖をつけている。最近では齢のせいか備忘録としてパソコンのエクセルファイルに地域活動の支援メモを何かを行った日だけ残している。それだけでも非常に助かっている。複数の人達と運営している活動では、文書化していないものも多く、誰が決めたのか、俺は知らない・聞いていないということも多く、幸い大きなトラブルに至った事はなかった。

20年前のノートのように身近に隠れていそうな玉手箱を探されては如何でしょうか。

漢詩研修 (五十六)

千代田岳精会 平井茂行

千曲川旅情ちくまがわりょじょうの歌

島崎藤村しまざきふじむら

小諸なる古城のほとり
こもろなるこじやうのほとり

雲白く遊子悲しむ
くもしろくゆうしかな

緑なすはこべは萌えず
きどろなすはこべはもえず

若草も藉くによしなし
わかくさもせきくによしなし

しろがねの衾の周辺
しろがねのふすまのおがべ

日に溶けて淡雪流る
ひにと溶けてあわゆきなが

あなたかき光はあれど
あなたかきひかりはあれど

野に満つる香も知らず
のにみつもるかおりも知らず

浅くのみ春は霞みて
あさくのみはるはかすみ

麦の色わずかに青し
むぎのいろわずかにあお

【作者】

明治5年、長野県馬籠（まごめ）村（現在、中津川市馬籠）に生まれる。名は春樹。藤村は号。明治・大正・

昭和前期の詩人・小説家。9歳で学問のため上京、明治学院を卒業後、明治25年明治女学校の英語教師となる。翌年、「女学雑誌」の編集に携わった時期に北村透谷（とうこく）に魅せられ「文学界」に加わり、同人として浪漫的な叙情詩を発表。東北学院の教師として赴任した仙台で明治30年に第一詩集「若菜（わか菜）集」を刊行。続いて「二葉舟（ひとはふね）」「夏草」を発表。小諸義塾の教師として信州に赴任後、明治34年「落梅集」を発表。

小諸では詩から散文への転換期であり、明治38年上京し翌年「破戒（はかい）」を発表し、日本の自然主義の代表的作家となり、数々の著作を発表。長編「夜明け前」は高い評価を受けた。昭和18年「東方（とうほう）」の門を執筆中に七一歳で没す。

旅人の群はいくつか
島中の道を急ぎぬ
暮れ行けば浅間も見えず
歌哀し佐久の草笛
千曲川いざよう波り
岸近き宿にのぼりつ
濁り酒濁れる飲みて
草枕しばし慰む

『正直 覚悟 矜持』

中 屋 保 之

日経新聞の「私の履歴書」に今月から、女優の吉行和子さんが執筆している。ご存じの方も多かろうと思うが、功成り名を遂げた、方々の来し方を綴る欄である。正直、自慢話で鼻持ちならない回も無いわけではないが、この人は変な氣負いがなくて良い。

「戦争が廊下の奥に立つてゐた」という句を見ると、いつもドキッとする、と彼女は書いている。この句を詠んだのは「渡辺白泉」という昭和初期の俳人だそうだ。私も、ドキッとした。得体のしれない恐怖感に襲われる、そんな感覚である。悪しきものはいつの間にか、私たちの身近に忍び寄ってくるぞ、努々油断召さるな、という警告であらうか。今の新型コロナウイルス禍への対応や、公文書改竄等での推移を見るにつけ、そう思う。先日、某テレビのインタビューを受けていた官僚が、絞り出すようにして正直に応えようとしている様子が映し出されていたが、事の真偽は別にして、個人と組織人との葛藤は氣の毒なほどであった。

人として生きてゆくうえでの幾つかの大切なこととして「正直」に「覚悟」して「矜持」を持つ、を挙げてみたい。言うは易く行ふは難し、である。大学生の頃、父に「男は意地と見栄が無くなったらおしまいだ」と聞かされたことがある。当時は、何のことか理解しがたかったが、今では「矜持」が近いような氣がしている。他者との比較などの相対的なものではなく、自身の確固たる信念に基づいた尊厳（プライド）という意味と解釈している。もちろん、『国家』という大きな存在と、ちっけな一個人とでは比較にもならないのは百も承知しているが、ここ数年の『国家』の「正直」のなさ、「覚悟」のなさが目に余るし、「矜持」などないに等しい、と思えてならない。氣づいたら（災禍が廊下の奥に立つてゐた）は、ご免だ。

翻って私自身はどうであったか。真つ「正直」であったかと言えば、うーん、ではあるが一部政治家のような見え透いた嘘はついていない。今のところ大それて覚悟を決める場面がない。同年代の社会学者の上野千鶴子さんがその著書《在宅ひとり死のススメ》のあとがきで、〈要介護になっても安心できる社会、安心して認知症になれる社会、そして障害を持つても殺されない社会をつくるために〉頑張る「覚悟」を述べている。私も要介護になる「覚悟」、認知症になる「覚悟」をする時期かもしれない。

「矜持」はどうだろう。尊厳（＝プライド）これだけはある、と思いたい。

梅ばい天てん閑かん日じつ

横
山
精
真

断だん続ぞくの雨あめは嘉よし
砌みぎりの松まつを濡うるおし

紫あじ陽さい花いは発ひらいて
戸こ庭ていに濃こまやかなり

南なん窓そうは傲ごうを寄よせ
意こころを安やすんずる所ところ

句くを鍊ねり杯さかずきを傾かたむけて
晚ばん鐘しやうを聞きく

梅天閑日

桜台楼主人 横山精真

斷續雨嘉濡砌松
紫陽花發戸庭濃
南窓寄傲所安意
鍊句傾杯聞晚鐘



（語釈）○断続…途絶えたり続いたりすること。

○嘉…好い、結構である。○砌…庭先。○戸庭…庭。門から内をいう。

○傲…悠々と楽しむ、その気持ち。

（通釈）今は梅雨時、降ったり止んだりして降り続く雨も好いものでもある。

家の玄関前の松の緑をたつぷりと潤しているし、紫陽花は色鮮やかに庭先に開いている。

南に面する小部屋は気ままに心を安んずる所、句を鍊り杯を傾けたりしている内に夕暮れの鐘の音が聞こえてきた。
※これを詩作した当時（平成三十年）はこの様な時が訪れようとは思ひもなかった。コロナで二回目の春を迎え
そしてやり過ぎそうとしている。

こんな時に明治の懸命な人達だったらどんな風に立ち向かっているだろうか。そんな事をついつい思ってしまう。
丁度、去年の三月、コロナの為に自肅に入る頃に後藤新平のノンフィクションを読んでいた。明治二十八年日清
戦争を始めてから検疫の大事業を児玉源太郎のもとで任される。

わずか二ヶ月の間に瀬戸内海の三つの島に検疫所を作り、戦争後勇み立って帰ってくる将兵全てを検疫消毒した。
艦船は六八七隻、総人員二三二、三四六人、開国後わずか二十八年での完璧なやり方にヨーロッパの先進国が驚嘆し
たのである。

各国に先立って日本は何とかやれるのではないだろうか、と一市民は思うのである。が、今の日本はやれていない。
決して一人の首相の責任とは思っていない。

体を動かさないで酒を飲むのが気になってくる。

大恩寺懷古

今泉由利

蕭然雲樹好林泉

路繞登高御山巔

唱和相呼無限意

乾坤塵外素心伝

うんじゅしょうぜん

りんせんよ

雲樹蕭然として林泉好し

みち めぐ たか のぼ みやま てん

路は繞り高く登る御山の巔

しょうわあいよ むげん い

唱和相呼ぶ無限の意

けんこんじんがいそしん つと

乾坤塵外素心を伝う

徳川家康公の祖父命名による大恩寺山

この山の麓で生まれ、育ち、敬い、親しみ。

長くいた外国からも、この山を偲ぶのでした。

旅人芭蕉(2)

夏目勝弘

紀行本文には、三河の保美に蟄居中の杜国を訪ねようと「まづ越人に消息して：其夜吉田に泊る」とある。十一月十日の吟

○寒けれど二人寝る夜ぞたのもしき 芭蕉

出立の身支度の朝

○こを焼いて手拭あぶる寒さ哉 芭蕉

三河でも松の葉の落葉のことを「こ」といつている。小学生の頃は、日課のように山道に落ちている「こ」を集めにいったことをこの句で思い出した。

十二日には、伊良湖崎に杜国をたずねる。

○鷹つ見つけてうれしいらこ崎 芭蕉

紀行本文に「鷹のはじめて渡る所といへり」とある。

コロナ禍の今、他県へは行けない、ならば「笈の小文」の旅は、愛知県それも地元の豊橋市と田原市とする。

芭蕉は吉田より保美まで、五十キロ余りありを、二日かけて行った。

まず手始めに伊良湖にと思い、三月十五日豊橋より七時二十六分発の、田原行きに乗り、田原よりバスにて、杜国の隠住していた保美へ向う。

八時十五分発の保美行に乗る高校生が多く乗ってきたが、高校前で降りたため、後は老人三人のみ、二人の老人も直ぐに降りてしまい、一人となり終点の保美に九時ごろに着く。

杜国は坪井庄兵衛といい、裕福な米商人で、芭蕉がその才能を愛した門人ですが、空米売買の罪に問われ、財産没収のうえ処刑の刑をさうけ、保美に隠住した。

海岸沿いの道路の両側は商店もあり、街をなしているが、街並

より脇道を行く、昭和造りの農家が点々とあり、平成造りの新しい家も少しは建っている。

竹藪を少し切り開き、自販機が設置してあったので水を買う。藪に沿い川幅メートルもない、水深も五センチにも満たない流れで、せせらぎの音などもない。

大海に流れ込む川は大河ばかりと思っていたが、ここでは総ての川が太平洋に川口がある。なんとなく不思議に思えた。

○妻はえてよき隠家や鼻村 芭蕉

現在では道の両側は、見えるかぎりキャベツの鼻村である。

たえず杜国のことを思っていた芭蕉は、本人と対面して無事を喜ぶ。

落ぶれの身となった杜国にとって、なによりにも代えがたいものとなった。

芭蕉は傷心の杜国を励ますため、明春に予定している吉野の花見に同行するよう勧め、奈良で会うことを約束して、杜国と別れたのが十二月一日、芭蕉は名古屋の書籍商の風月堂夕道の宅に立ち寄る。

○いざさらば雪見にころぶ所まで 芭蕉

芭蕉と杜国とのことを思いつ、キャベツの匂ひの漂よう道を伊良湖に向う。

二十余年前に同じ職場で仕事をした友が、伊良湖の郵便局の局長をしている。

もう三月で定年になると云う、二十年の時間の長さを思い知らされた。

一年契約で局長を続け働けるまでは仕事を続けるとのこと。でも病院通いのため先のことはわからないが、今はノルマが無くなったのでなんとか勤められるとも。

無事を祈り、別れて伊良湖岬へと向う。

「氷魚」のことから (245) 岡本八千代

今年の春は、桜が咲いてもそれどころではない。世界中が新型コロナウイルスに脅かされている現実……。私の住む小さな小さな岬の町蒲郡の西浦でも、老人は外出禁止、若者も老人の家の訪問もいけないのだ。

そのような環境の中で、斎藤茂吉のことを書くこうとしている私。その昔、三河アララギの編集会の時、御津磯夫先生がおっしゃった言葉を思い出す……。「茂吉はある場合は一首に一時間以上もの苦吟をした反面、若い頃に速詠の稽古をも積んだりしたんだよ」と。それば、「むかしは線香をともし、それがとほりきる前に何首作ったかを競ったものだ。それが根岸短歌会の伝統だったんだよ」……と。

私は、そのことを今になって思い出した。茂吉先生だって、作歌についてそのようなことをされたのかと、また、たわいもない遊びのような心遊びをやられたんだと思ったものだった。

北杜夫の「壮年茂吉」(「つゆじも」・「ともしび」時代)より拾ったことばを書きぬいてみる。

・太陽が落ちてしまつても。

夕映がある。残紅がある。余光がある。薄明がある。夕あかり。なごりの光。消のこるひかり。等々がある。

・僕は少し感傷的な気分になって、ゆふべの余光のなかを歩いてゐる。さうすると、いそがしい写象意識面をかすめて通る。

・今、やつてゐる僕の脳髓病理の為事も、前途まだまだ遠いやうな気がする。

・まだ序論にも這入らないやうな気がする、

・きのふの午後に見た本屋の蔵庫にあの心理の雑誌は、いくばく値切るべきであらうか。

・あの続きを揃へようと思へばライブチヒに注文して貰へばいい。

・日本にゐる童子は、学校でも遊び友だちは殆どないといふ妻からの便りがあつた。

・己に似たのかも知れん。……と。

ところで、ここで気づいたのは、北杜夫自身のことを私は茂吉とばかり思つて書いてきたことだった。

親子というものは、こんなにも似るのかと思つて読みなおした。かくして、茂吉あつて北杜夫があつたのだから……。

茂吉壮年時代の「つゆじも」・「ともしび」時代の歌をここに拾つてみた。

○うつり来しいへの量のにほひさへ
心がなしく起臥しにけり(つゆじも)

○時のまもかりそめならぬわが業を
いそぎいそぎて年暮れむとす(遠遊)

○ミュンヘンの夜寒となりぬあるよひに
味噌汁の夢見てゐきわれは(遍歴)

○かへり来し家にあかつきのちやぶ台に
炎焰の香する沢庵を食む(ともしび)

茂吉の生涯にとつて最も苦難の時であつた。歌は苦難のりこえることができるかも。

編集室だより【二〇二二年四月】

今泉 由利

○仕事で日本に来ている由野が、コーヒーやオレンジジュースや…。一匙、サラサラした粉を入れて飲んでいる。「何！それ？」「コーラゲンだよ。」「何に入れても邪魔をしないし、必要だから。」「肌を支え、骨の強度を高め、血管や内臓、身体の内たところで活躍しているコーラゲン」…と教えてくれました。

○自身について、何心配なく、自由気儘に生きてきたけれど、心配してあげないといけない時がきている。「スプーン1〜2杯」で自分を労るつもりになっている。

○「外国生まれの、私の二人の女の子達が、自分の実力で、自分の思いど通りに、世界で生きる」という基本で育て、もう何を言わなくても、彼女達を見守っているだけで良い。

○パナマ運河を渡り終え、引越道中、大型船舶は、ベネズエラ・ボリバル共和国の首都、カラカスに停泊。下船して、とにかく町の方へ歩いてゆく。キヨロキヨロ、テクテク、ボーリング場を見付けた。久し振りの揺れない大地で、思いのほかうまくいったから、この無謀な旅への勇気がでてきた。

○カラカス港を出航し、次に停泊したのは、世界遺産、オランダ領キュラソー島。港から町の方へは、木の根、草の根を掴んで登るような山道だったのに、登り着いたのは、ブーゲンビリア、ハイビスカス、プルメリア：盛る、静かさ、美しさ、穏やかな佇まい。なんと素晴らしい処。

一旦、船に帰り、大好きなドレスに着がえて、また山道をよく登り、カシノに出掛けた。何知らぬまま、ルーレットといふを：この夜一点張りは何回も当たり、お金持ちになってしまった。

○私の引越し道中の一番はじめ、横浜港を出航し、十日間ほど。船酔いで頭があげられなかったまま着いたハワイ。下船すれば、何事もなく、大地を歩いた感動は大きかった。ハワイの美しいビーチ。サーフィンのボードを貸していたから、借りた。一度も経験なし。波静かな、三河湾の海とは大変な違い、引く力の強烈さに、びっくりした時は、ボードは私を乗せないで、はるか彼方にあつた。そのボードを回収するのに、ハワイでの全部の時間を費やすのだった。足裏に、ハワイの砂の感覚は、今もしっかりと残っている。

○ハワイの次は、ロスアンゼルス。父母の、三河アラガの会員のご夫妻が、私を迎えて下さって、デカイ車で突っ走り、デイズニールランドに着いた。

全部の角度から夢。楽しくて、やさしくて、合理的で、世界中をデイズニールランドにしてしまえば良いのに。あの時から、ミッキーマウスのTシャツを着ている。

野菜・果物・まんだら

(40) 菱 (ヒシ)

Trapa japonica ヒシ科 ヒシ属



○「蘇台賢古」李白

起 旧苑荒台楊柳新
承 菱歌清唱不勝春
転 只今惟有西江月
結 曾照吳王宮裏人



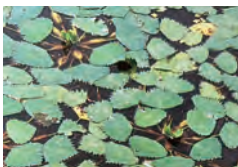
○承句の「菱歌清唱春に勝えず」この「菱歌」とはどんな歌なのだろうかと気になった。じゅん菜のように、沼に小舟を浮かべ、娘達が菱の実を収穫する時に唱ずる民謡と知る。そして、菱の実を知りたくなった。



○水生の一年草。夏、白い花が咲き、花の後、忍者が使うヒシ形をした実をつける。硬い皮をむき、生食、炒める、ゆでる。煎じる。



○古い湖、沼に自生し、葉はヒシ形、鋸歯がある。対生し、放射状に長い葉柄、ホテイアオイのように、中部がふくらみ、これが浮き袋になる。7～8月、若い葉の葉腋の先に、白や淡紅色の4弁花を水面に開く。



○果実の成分、デンプン、ステロイド(スチグマステロール誘導体)葉にタンニン。滋養、強壮、消化不良、乾燥した果実を生食、ゆでる。二日酔、健胃には、黒く熟した果実を煎じて服用。

○万葉集に柿本人麻呂の歌。

君がため浮沼の池の菱採むと我が染めにし袖濡れにけるかも 卷7-1249

今泉由利

子規記念博物館開館四〇周年・子規没後一二〇年祭 第三十九回 子規顕彰全国短歌大会

応募要領

雑誌二首一組（未発表作品に限る）、何組でも可。

規定の応募用紙は子規記念博物館のホームページからダウンロード（A4版）できます。

必要事項を楷书で明記し、応募料（郵便為替または現金）を添えてご応募ください。

応募料

二・五〇円（二首一組）

締め切り

令和三年八月二日（月）必着

応募先

〒七九〇・〇八五七 松山市道後公園一三〇
子規記念博物館内 子規顕彰全国短歌大会 係
電話〇八九・九三二・一五五六六 <http://shikaku.espc.jp/>
電話〇八九・九三二・一五五六六

選者

秋葉四郎 坂井修一 中川佐和子 吉川宏志 片上雅仁
※順不同・敬称略

賞と発表

文部科学大臣賞・愛媛県知事賞・松山市長賞・松山市教育長賞
後援賞／現代歌人協会子規記念賞・日本歌人クラブ賞

短歌研究社賞「短歌」編集部賞・現代短歌社賞

選者賞／各選者 特選二首・秀逸五首・入選十五首

※大会当日に発表 表彰

入賞歌集

応募者全員に一人一冊送付します。（十二月末予定）

大会日時

令和三年十月二十四日日 午前十時より

会場

松山市立子規記念博物館 四階講堂

記念講演

講師／吉川 宏志 氏（『塔』主宰）
演題／「子規の〈写実〉を改めて考える」

主催

松山市教育委員会

後援

文化庁 愛媛県 現代歌人協会 日本歌人クラブ 松山歌人会
短歌研究社 角川「短歌」 現代短歌社 朝日新聞社 読売新聞社
毎日新聞社 愛媛新聞社 NHK松山拠点放送局 南海放送
テレビ愛媛 あいテレビ 愛媛朝日テレビ FM愛媛 愛媛CATV

作品募集

「三河アララギ」について

◇三河アララギ発行所 〒一一四・〇〇二二

東京都北区王子本町一・二六・六・A

TEL (〇三) 五九二四・二〇六五

◇URL <http://imaizumiyuri.jp/>

E-mail yurimaizumi@jcom.zaq.ne.jp

◇編集・発行 今泉由利・森岡陽子

◇三河アララギ誌は毎月発行します。

◇会員・今まで会員の方。希望される方。

◇会費制 廃止。

◇新しく購読を希望される方 一ヶ年五千元。

◇振替口座 〇〇八三〇・六・五六二二九

◇原稿送付先 〒一一四・〇〇二二

東京都北区王子本町一・二六・六・A

今泉由利 宛

◇原稿は毎月末日までに郵送下さい。